

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270135108
法人名	社会福祉法人 小榊アスカ福祉会
事業所名	グループホーム ひばり
訪問調査日	平成 20 年 1 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 13 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270135108		
法人名	社会福祉法人 小榎アスカ福祉会		
事業所名	グループホームひばり		
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市みなと坂1丁目6番35号 (電話) 095-834-4141		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価結果報告日	平成20年3月10日

## 【情報提供票より】(平成19年12月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.75 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 18,000円
敷金	有( ) 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成 19年12月12日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.1 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	すがさきクリニック(診療内科)、中島医院(内科)、かわぐち歯科(歯科)
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎港が一望できる新興住宅地に位置し、広く、ゆったりと温かみがあり、機能的な建物である。地域との関わりを大切にし、地域活動や行事等に積極的に参加したり、職員が近くの公民館で行われる介護教室等の講師を務めたりと地域との交流、貢献にも力を入れている。  
「1.笑顔・真心・思いやり・温かいお家、2.みんなが遊びにこれるお家、3.安らぎのあるのんびりしたお家」という地域密着型サービスであるグループホームならではの理念を作りあげている。  
職員は、研修への参加などにより研鑽を重ねており、理念のもと、穏やかに利用者の尊厳を守りながら、自己決定やそれぞれが有する能力を発揮してできる場面作りに努めており、歌を歌ったり、料理を作ったり、園芸をしたりと、利用者から学びを得ながら、共に支え合い、信頼関係を築くよう努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では玄関周りへの配慮と冷蔵庫・洗濯機の清掃が改善課題であった。課題には早速取り組み、玄関周りにプランターや鉢に花を植え、冷蔵庫や洗濯機の清掃も定期的な実施を計画し取り組みしており、改善されている。評価時の課題ではないが、評価をきっかけに職員間で検討し、記録の改善にも取り組んでおり、課題への積極的な姿勢が見受けられる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部評価4) 自己評価では、常勤者全員が一人ひとり全項目の評価を行い、非常勤者は抜粋した項目の評価を行って、カンファレンスで検討してまとめている。自己評価に取り組み、職員間で個人記録の問題や入居時の利用者への対応などを課題として見出し、改善へ取り組む姿勢が見受けられる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。利用者家族の代表、地域の自治会長・副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人理事長、職員などがメンバーとなっている。会議では、事業報告、外部評価の報告と改善状況、利用者へのサービス等について意見交換を行っている。取り組み始めて1年余りだが、利用者家族の生の声を聞くことができ、認知症やグループホームへの地域の理解が深まり、協力体制が少しずつできてきていることなど、成果が見受けられる。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や苦情の対応については、契約時にホーム内外の対応方法について説明し、重要事項説明書にも明記している。家族の面会時や家族会で意見や要望を聞くように努めており、最近では運営推進会議でも意見を聞けるようになった。これまでにあった苦情については、その都度早急な対応を行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、地域の一人として清掃活動や夏祭り・敬老会に参加したり、小学生の運動会に招待してもらったりしている。一方、ホームが小学生の福祉学習の場になったり、幼稚園などの子どもをはじめとする地域の人々の訪問も受け入れて交流を図っている。また、法人の創立記念日の講演会に地域の人を招いたり、近くの公民館で介護予防教室や介護教室を開いて地域貢献も行っており、災害時における地域の消防団との協力体制も整っており、地域との交流や連携が円滑に行われていることが窺える。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人設立の際から地域と社会貢献を意識しており、法人の理念を基本理念として、6項目にわたってパンフレット等に明記している。法人理念をもとに、事業所独自に「1.笑顔・真心・思いやり・温かいお家、2.みんなが遊びにこれるお家、3.安らぎのあるのんびりしたお家」という地域密着型サービスであるグループホームならではの理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念を共有するために、毎月行うカンファレンスで全職員で理念を唱和している。職員控え室への掲示や、職員の名札の裏にも理念を入れて持ち歩き、いつでも見れるようにして、理念の実践に努めている。玄関やリビングにも掲示し、利用者や家族にもわかるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立時から常に地域との関わりを意識しており、自治会に加入し、近隣の清掃活動や夏祭り、敬老会などに参加している。近隣の小学生や幼稚園児がホームに訪れたり、法人の創立記念日に認知症への理解を深める講演会を開き、地域の人々など100名程度を招待したりして、交流を深めている。また、近くの公民館で毎月1回介護予防教室や介護教室を開いて職員が講師を務め、地域への貢献活動も積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	設立5年目を迎え、評価の意義も職員に浸透している。自己評価は、常勤の全職員が全項目、非常勤職員は抜粋した項目について行っており、カンファレンスで全員で話し合っており、カンファレンスで全員で話し合っており、前回評価の結果から、玄関まわりの雰囲気づくりや、冷蔵庫、洗濯機などの清掃について、改善策に取り組んでいる。また、記録についても見直しを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催しており、利用者家族、民生委員等の地域住民、地域包括支援センター職員、職員で構成している。会議では、事業報告、外部評価結果や改善状況、サービス等について意見交換を行っているが、会議録は議題程度の記載で会議での検討内容がわかり難く感じる。取り組み始めて1年程度であるが、利用者家族の生の声が聞けたり、地域の人々の認知症やグループホームについての理解を深めてもらったり、少しずつ成果が出始めている。	○	運営推進会議の議事録には、意見交換の内容や要望、助言、評価等、その要約を記録することを期待したい。

長崎県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者をホームの行事等に招待したり、行事と運営推進会議を同日に開き、会議に参加してもらえるようにしたりと工夫しており、連携して質の向上を目指すまでには至っていないが、連携に向けた努力をしている。	○	市担当者との様々な連携、協力が得られるように、運営推進会議や行事の開催案内を必ず行い、会議録や行事結果も送付するなど、根気強くアプローチを継続されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、ホームの人事・行事等については、家族の面会の度に報告をしている。金銭管理についても出納帳を作り、預かり金の収支を明らかにし、領収書を添えて報告している。家族が遠方に住んでいる場合は、月1回の入居費の請求書と併せて、ホーム便りや近況報告、金銭出納報告書も送付している。また、行事等の写真は職員がアルバムに綴り、いつでも見れるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、家族の意見や苦情に関する内外の相談機関等の説明を行い、重要事項説明書にも明記している。家族の面会時や家族会では苦情や意見を出してもらえるように努力している。これまでに家族から出された苦情や意見についても速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職がある場合は、職員と十分話し合ったり、異動前から新たに入る職員がなるべくホームに足を運んだりして、利用者へのダメージがないよう努力している。これまでは利用者の動揺はあまり見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任や中堅者向けの階層別研修は必ず受講できるようにしている。全職員が年に1回は出張として研修に参加しており、個人的な参加を含めると年3、4回は研修を受けている。参加費が必要な研修には、法人から費用を出しており、研修後は報告書を作成し、カンファレンスで伝達、共有している。法人内や事業所内の勉強会も月1回は開催し、担当を決めてテーマを選んでいる。勉強会には全職員が参加できるように、短時間パートの方を雇用する等の工夫をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているが、開催地が遠方であることや研修内容等がホームの求めるものと違うこともあり、最近では活用していない。以前は、近隣のグループホームと交換研修を行い、職員3～4名が参加し、他事業所の良い面を学んだり、自分の職場を見直す良い機会となっていたが、今年では行っておらず、他事業所との交流が十分でない面がある。	○	グループホーム協議会に加入しているので、活用の方法を検討するとともに、以前のような他事業所との共同研修等を再開され、ケアの質の向上に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所としては、併設デイサービスや小規模多機能の利用などを経て、馴染んでもらってから入居できるような対応が良いと考えている。以前に、ホームに馴染んでもらうまで4ヶ月かけて自宅とホームを行き来しながら入居に至った利用者もいる。最近では、即入居を希望する利用者や家族が多いが、このような場合も、入居前にホームを訪問してもらう機会を増やし、早く馴染める工夫をしながら対処するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、共に生活するという考えのもとケアにあたっている。利用者は職員を家族として信頼して暮らしており、共に食事を作ったり、掃除、洗濯をしたり、買い物に行ったり、歌を歌ったりしている。料理の味付けや魚のさばき方、選び方、昔の歌を利用者から教わることも多く、時には利用者の優しさに励まされながら、職員も楽しく支援に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が自分の思いや意向を表現しやすいように、常に寄り添って信頼関係を築く努力をしている。特に担当の利用者に対しては、細心の注意を払い把握に努めている。また、カンファレンスでは職員間で情報を出し合い検討して、意向に沿う介護ができようとしている。意向の把握が難しい場合には、家族にも協力や確認を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	心身の状態について職員間で検討し、利用者のできることを大切にしながら、担当職員が主になって介護計画を立てている。作成した介護計画は、担当者が本人や家族に報告、相談、修正して実施に至っている。アセスメントにはセンター方式を取り入れているが、介護計画との関連性が見えにくい面がある。また、本人や家族の意向を確認しているが、記録に残されていない。	○	介護計画の充実を図るために新しい方式を取り入れて努力しているが、大切な記録が残されていない面が見受けられる。介護支援専門員がリーダーシップを発揮し、介護計画の一連の流れや記録を整理し直すことが期待される。利用者のできることを大切にしたいという思いを大事にしているため、わかりやすい記録を残しアセスメントに役立て、より良い介護計画を作成されることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は定期的に見直しを行っている。急に状態変化等があった場合は、その都度修正、変更を行っているが、記録をそれぞれに経っており、計画と実践、見直しの結果が見難いように見受けられる。	○	利用者は、穏やかで笑顔が多く、職員が良い計画やケアに取り組んでいると思われるので、今後さらに、こまめに見直しを行い、以前の計画を継続する場合は、継続して取り組むことを記録するなど、しっかりと記録を残し、裏付けるものを明確にされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が同行できない場合の受診介助、自宅への週1回の帰宅送迎、お盆の墓参り、葬式参列の付き添い、正月に家族が集って新年を祝うための場所の確保など、利用者や家族の要望等に柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族がかかりつけ医の継続受診を望む場合は、送迎や医師との連絡・調整などの支援を行っている。また、ホームの協力医を希望する場合も、意向に合わせて支援しており、あくまでも利用者や家族の自己決定を大切にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、原則として食事が摂れる状態の間は利用できると説明しているが、重度化や終末期については、家族等と話し合っ希望に沿いたいとも説明しており、利用者や家族の希望、支援体制の状況によって看取りを行う方針である。利用者や家族の希望は、その時々によって変化があるので、確認を重ね、できるだけ真摯に対応したいとの意向が窺える。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴やできることを大切にして、適切な声かけや対応に努め、否定せず、尊厳を傷つけないように心がけている。食事や排泄の失敗があった際にも、他の利用者に知られることのないようにそっと誘導、支援している。記録等の個人情報は、一定の場所に保管し管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「安らぎのある、のんびりした家」という理念に基づいて、利用者の毎日の起床、就寝、食事などの時間も本人のペースに合わせ、規則や時間に追われることなく、のんびりと過ごしてもらっている。また、急に外出や買い物希望があった場合も、いつでも対応できるように努力している。		

長崎県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、一緒に食事作りを行っている。外食をしたり、ピクニックに出かけ屋外で食事することもある。また、季節ごとに、七草粥やいも団子、月見団子を作ったり、利用者の誕生日にケーキを買って来たりと、食事の変化にも配慮している。食事の際は、利用者の希望で食卓を分け、BGMに昭和初期の懐かしい音楽を静かに流し、ゆっくりと食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、午前も午後も入浴できるよう対応しており、回数も自由にしている。現在、入浴拒否をする利用者はいないが、できるだけ週3回は入ってもらえるように配慮している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯を行い、時には入浴剤を用いて楽しんでもらえるよう計画している。基本的には一人ずつ入浴してもらっているが、希望によっては二人で入ることができるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力に応じて、調理や洗濯、掃除、園芸などの役割を担ってもらい、感謝の言葉を伝えている。また、雑巾やテーブルクロス作りなどもお願いし、その人らしい暮らしができるよう支援している。楽しみごととしては、地域行事への参加、利用者の誕生会、花見や月見、外食に出かける等、定期的に計画し、実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日利用者を誘って食材の買い出しに出かけている。急に希望が出された場合も対応できる体制を整えている。また、季節ごとの花見なども計画し出かけることが多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は玄関の施錠も身体拘束と認識しており、居室に鍵はなく、玄関の鍵も19:30～7:30以外はかけていない。玄関に鈴を付けたり、階下がデイサービスになっていたり、さらに見通しがよい設計になっており、二重、三重の安全面の配慮が見受けられる。転倒の危険性が高い利用者については、居室にセンサーマットを利用し安全の確保を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練や避難訓練は年3回行っており、地域の消防団の協力を得て実施している。職員も災害に対する認識が高く、自治会や消防団(3地区)の協力も得られるようにしている。災害時連絡網も整備し、通報装置により一度に10人以上の職員(併設事業所の職員も含む)に連絡できる体制を整えている。また、スプリンクラー、その他の災害用装置も年2回の定期点検を行っている。		

長崎県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、毎日一覧表に記録している。利用者の健康状態に応じて、トロミ食や刻み食なども作っている。献立は利用者の希望等によって変更するが、栄養のバランスやカロリーについては、法人内の栄養士の点検やアドバイスを受けている。体重は1ヶ月に1回測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は木目の格子の扉で、中に入ると吹き抜けの中庭があり、適度な明るさで、温かみがあり、開放感がある。居間には畳のコーナー、ゆったりしたソファ、食卓テーブル2卓を、利用者の思いや能力、意欲、行事を考慮して配置している。ルーフバルコニーには洗濯物を干しており、一方にはプランターに花が植えられている。リビングに座っていてもバルコニーの先に長崎港が見え開放感があり、浴室の広い窓からも港が見え心地よい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は8畳位の広さでゆったりとしており、ベット、クローゼット、整理タンスを備え付けている。入り口には様々な暖簾が下がり、表札を掛けている。仏壇やソファ、テーブル、テレビ、写真など、利用者の好みに合わせて、様々なものを持ち込んで配置し、個性豊かな居室となっている。		